

日本原子力学会 第 114 回倫理委員会
議事録

1. 日 時：2019 年 10 月 2 日（水）13:30～17:00
2. 場 所：日本原子力学会事務局会議室
3. 出席者：大場委員長、福家副委員長、足立委員、伊藤委員、嶋田委員、菅原委員、
土田委員（スカイプ出席）、手柴委員、中野委員、中村委員（委員 14 名中 10 名出席）
オブザーバー 北村氏
4. 資 料：
 - 倫 114-1 日本原子力学会 第 113 回倫理委員会 議事録（案）
 - 倫 114-2-1 倫理委員会活動計画
 - 倫 114-2-2 倫理委員会役割分担表
 - 倫 114-3-1 2019 秋倫理委セッションアンケート集計結果
 - 倫 114-3-2 2019 秋倫理委員会セッションアンケート結果
 - 倫 114-4 次回倫理研究会について
 - 倫 114-5 2020 年春の年会 企画セッションについて（案）
 - 倫 114-6 「研究機関の安全文化」の議論の進め方について（3）
 - 倫 114-6-2 原子力機構職員への安全文化に関する試行アンケートの結果（整理）
 - 倫 114-7 次回倫理規程改定に向けた検討について
5. 議事概要：
 - (1) 前回議事録の確認
福家副委員長から資料 114-1 に基づき前回議事録（案）について説明があり、誤記修正（5.1(2)3 行目の「兩名の」を削除）をした上で、了承することとした。
 - (2) 倫理委員会の活動計画について
福家副委員長から資料 114-2-1 及び 114-2-2 に基づき説明があり、今後の委員会活動の進め方を確認した。
 - (3) 2019 年秋の大会企画セッションについて
菅原委員より資料 114-3-1 及び 114-3-2 に基づき、2019 年秋の大会企画セッションのアンケートの結果の報告があった。
 - ・規制機関、報道機関からの参加がなかった。
 - ・初めての参加者が多かった。AI をテーマにしたことに起因していると考えられる。
 - ・セッションに対する満足度は高いが、質疑応答の短さに対する不満もある。また、講師に対する旅費等の支払い手続きを進めていくこと、講演者である久木田先生に学会誌への投稿を依頼することが確認された。
今回の企画セッションのフォローアップを研究会で行うこととし、研究会の趣意書を菅原委

員が作成することとした。

(4) 倫理研究会について

福家副委員長より資料 114-4 に基づき説明があり、以下の方針で進めることとした。ただし、どのようなテーマを選定するにしても、講演による勉強会・知識の習得ではなく、講演により倫理委員会が何をすべきかを議論できることを目的に企画する方向性を確認した。

- ・米国の ROP 導入に関わることをテーマとする。福家副委員長から奈良林委員に、保全学会における議論の状況を収集することとした。
- ・最近米国の ROP 導入・定着・改善の背景等をまとめた書籍が出版されており、委員はこの知識を深めた上で研究会に臨む必要があるのではないか。

(5) 2020 年春の年会企画セッションについて

中野委員より、資料 114-5 に基づき企画案の説明があり、議論を行った。

<企画案>倫理委員会が継続して改定してきた倫理規程が、会員の技術・研究活動において、どの程度意識されているか、理解されているか、実践につながっているかを検討し、その中にある課題の解決を探る。そのために、2011 年以降の技術・研究活動を振り返る講演、認知科学の専門家による講演（45 分）をもとに、倫理規程を理解し、アイデアを創出するために必要なことは何か、自らの言動に倫理規程を反映するために想起すべきことは何か。

- ・「2011 年以降の技術・研究活動を振り返る」は倫理規程を枕詞にすると講演自体が困難ではないか。
- ・「2011 年以降の技術・研究活動を振り返る」は規制の変化や設計変更によるものではなく、自ら変更したものであることが必要である。
- ・「2011 年以降の技術・研究活動を振り返る」は事前にアンケートを取り、認知科学の講演につながるようにしてはどうか。
- ・福島における甲状腺被ばくの問題を題材にしてはどうか。
- ・ROP、CAP に関わる題材にしてはどうか。

本日の議論を踏まえ、引き続き議論をしていくこととした。本日の議論を中野委員が整理し、大場委員長、福家副委員長、神谷幹事と相談しつつ、セッションの構成を検討していくこととした。

(6) 研究機関の安全文化について

中村委員より資料 114-6 に基づき説明があり、議論を行った。原子力機構所属者の率直な意見が収集できており、有意義であるとの説明があった。このアンケート結果を評価し、次回委員会で議論を継続することとした。

(7) 次回倫理規程改定に向けた検討について

大場委員長より資料 113-9 に基づき、現時点での集約状況の説明があった。今後、以下の方針で進めることとした。

- ・大場委員長、福家副委員長、神谷幹事で今後の進め方（WG を設置するなど）を検討すること

とした。

- これまでの倫理規程改定履歴を委員で共有することとした（担当：大場委員長）。
- 倫理規程を周知するための広報の手段として学会誌に委員会報告のページ等を設けてはどうかとの意見があったことから、この考えに同意する委員は会員個人として学会誌のアンケートに要望していくこととした。

6. 次 回：第 115 回 2019 年 12 月 17 日（火）13:30～17:00@日本原子力学会事務局会議室

以上